

中村芝翫

應需

三馬倅虎之助讃「印」

浪花に時行歌右衛門は一世二代の名残狂

言を出し・吾妻に羽をのす芝翫丈は・初下りの狂

言を出せり・孰を孰左右の翼・亦と外には中村座

の・紋も銀杏に鶴助が・師匠にいたゞく両字の

改名・芝翫香の香りも含む大坂仕入・

芝翫茶の流行に順ふ江戸仕立に・意味兼備し大立者・まち／＼の

風呂屋には・加賀屋が名残の噂をなせば・辻々の髪結

床には・芝翫が初下りの評を競り・しかも時さへ当顔

見世・一番大鼓二番鳥・三番早々春芝居も・当り

続けし勘三の繁栄・祇園さんの祭礼より筒

まもりの定紋を目的に堺町に歩行をはこび・千とせを延つて

丹頂の鶴よりも・替紋の鶴菱を尊むを想へば・京大坂の連衆も

いさめ・とつと宜敷街の風聞・又あうかいな此芝翫玉・

鶴菱の翼をのして

初くだり

くもぬへあがる

出世みへたり

【扇中の文字】

朝がほ／や

垣根／ちからに

7 9 6 4 2 - 6 2

咲に／けり
芝翫